

今年を振り返って ～令和6年 静岡市政にかかる主な出来事～

本日12月24日が、今年最後の市長定例記者会見となりますので、市政にかかる主な出来事を振り返ってみます。別紙に、月ごとの主な出来事をまとめましたので、ご覧ください。

- ・本年も地震や豪雨災害など、静岡のみならず全国的に自然災害による被害が相次ぎました。
 - ：まず、1月には能登半島地震が発生しました。静岡市も被災した加賀市や輪島市などに、発災直後から5月末まで、延べ5,900人を超える職員を派遣し、全庁を挙げて被災地支援に取り組みました。
 - ：8月には、「南海トラフ地震臨時情報」が初めて発表されたことを受け、発表当日から警戒本部体制をとり、情報収集を行うとともに家具の固定状況や非常持ち出し袋、避難場所や避難経路、ご家族との安否確認方法などを改めて確認いただくよう、市民の皆様呼びかけを行いました。
 - ：同じく8月には、台風第10号が襲来し、駿河区曲金において72時間雨量が観測史上最大となる515ミリを記録しました。土砂災害警戒情報が長期にわたり発表され、浸水や土砂災害により市民の皆様が被災される事態となりました。
 - ：9月には、林道東俣線内で発生した崩土により、212名が一時的な孤立状況となりました。県や国土交通省のご協力のもと、孤立した方々を救出するとともに、崩土現場の迅速な復旧を行いました。
- ：近年の災害は激甚化・頻発化し、過去の災害を念頭に置いたこれまでの備えでは十分な対応ができなくなってきています。このような認識のもと、就任以来、「危機管理体制の強化」、とりわけ災害発生時には「初動全力」に重点を置き、災害対応に取り組んでいます。
- ：1月の能登半島地震では、上・下水道両方とも被害を受けて、市民生活・経済活動に大きな影響が出ています。静岡市では、このことを踏まえて、これまでの上・下水道の耐震化の考え方を見直し、重要施設へつながるルートを最優先にして線的に、集中的に進めるよう計画を見直しました。
- ：病院などの重要施設について、大きな地震が発生した際でも水道が使える・トイレの水も流せるよう、今後、耐震化を進めていきます。

- ： 4月には、市が行った「清水庁舎、静岡庁舎の耐震性解析結果」を公表しましたが、両庁舎は規模が大きく多くの市民の皆さんが訪れ、また、災害時に重要な役割を担う建物であることから、客観的な評価を得た上で整備方針を検討すべきと考え、解析結果を専門家による第三者評価を行う耐震評定委員会へ諮り、今月20日にその報告をいただきました。
- ： 報告内容を一見したところ、市が行った解析結果と数値が異なる部分はあるものの、建物全体としての安全性は4月の説明時から大きく変わらないと受け止めております。この報告については、内容を整理したうえで、1月の記者会見で改めてご説明する予定です。

- ： 8月の台風第10号の際には、河川の氾濫による浸水被害などが発生しました。
- ： 流水上の弱点を洗い出し、それに対し即効性のある対策をとるという方法を始めました。
- ： また、あらかじめ災害危険度を下げる取組として、大内新田の調整池への排水ポンプの設置による貯留量の倍増(1.5万㎡→3万㎡)など、少しでも浸水被害を抑えることができるように備えを進めています。
- ： また、市民や事業者の皆様のご協力をいただき、「災害時協力井戸」や「水害時緊急避難協力駐車場」といった取組も進めています。特に、災害時協力井戸は、報道機関の皆さんにも取り上げていただいたおかげで、本年の7月時点で64件だった登録が、12月時点では189件と3倍程度にまで増えました。

- ・ 9月には、静岡市独自の人口推計を公表しました。その内容は、静岡市の人口は2050年には約49.2万人(←24年67.6万人)に、0歳人口は約2,600人(←24年3,500人)というものです。
- ・ この推計は、このまま何の対策を取らなければこうなるというものです。こうならないよう、大きな危機感を持って子育て世帯への支援や若者にとって魅力的なまちになるような施策を進めていきます。
 - ： 子育て世帯の皆様からの要望が多い、雨の日にも子どもが体を使って遊べる施設を相次いで開設しました。
 - ： 廃校した小学校を活用して、5月には「西河内子どもの遊び場」を、10月には「水見色 子どもの遊び場」を開設しました。また、7月には商店街の空き店舗を活用した「JR清水駅西口 子どものあそびばまなびば ビバしみず」を開設するとともに、11月には市の補助金も使い静岡駅前の再開発ビルM20内に民間の子どもの遊び場「KIDS PARK X (キッズパーク てん)」がオープンしました。

- : 6月には、静岡市が抱える複雑化・多様化した社会課題を「新たな知」を持つスタートアップと、地域の団体・コミュニティなどの「地域社会の大きな力」の共働により解決を図る新たな取組「知・地域共創コンテスト」をスタートしました。このコンテストに、約300件のご提案をいただき、一次審査、二次審査を経て、11月には、実証フェーズに進む10チームを選定しました。
- : 「社会課題の解決」と「新たな価値の共創」を通じて、社会がうまく働く仕組みをつくとともに、社会基盤をみんなの力で押し上げることを目指します。

- : 7月には、「静岡市ふるさと納税応援大使」を創設し、第1号として勝俣州和（かつまた くにかず）さんに就任いただき、市の認知度向上などにご協力いただいています。ふるさと納税については、プロジェクトチームを中心に返礼品の充実と情報発信に取り組んできたことから、今年の4月から12月20日までの市へのふるさと納税額は15億円を超えています。
- : また、企業版ふるさと納税にも、たいへん多くの寄附をいただいています（4月～12月20日まで約8,100万円）。いただいた寄附で、例えば、IAI スタジアム日本平の改修（4,530万円活用）を実現したほか、今後はCGを使った駿府城跡天守のVR・AR映像の制作（目標5,000万円に対し、募集を開始した6月～12月20日まで約3,518万円。内訳：ふるさと納税 約31万円、企業版ふるさと納税 510万円、一般のご寄附 2,977万円）に使わせていただくことを予定しています。
- : ふるさと納税を活用し、市民や企業との共創社会の実現を進めていきます。

- : 同じく、7月には、静岡市と静岡県が共同で申請した「駿河湾・海洋DX 先端拠点化計画」が内閣府の地方大学・地域産業創生交付金事業に採択されました。この計画は、今後10年間かけて産学官が連携し、研究や教育力の強化、先端的な産業振興、雇用創出に取り組むものです。
- : 静岡理工科大学や静岡大学、東海大学のほか研究機関や企業などと連携し、海洋分野で新たな価値を共創するプロジェクトとして、駿河湾・清水港を活かした海洋DXの研究開発拠点の形成と新規ビジネスの創出を目指します。

- : 8月には、耕作放棄地など静岡市内に点在する未利用・低利用地や空き家など民間所有の財産を社会共有資産と捉え、その有効活用を図るため「一般財団法人静岡市土地等利活用推進公社」を設立しました。
- : 公社は、「ただらに存在する耕作放棄地などを集約して、一団の高度営農用地や企業用地にするための取組」や「空き家の掘り起こしや市場に流通させるための取組」を進めていきます。

- ：10月には、駿府城公園紅葉山庭園の佇まいの中で、美食による感動体験をしていただけるよう、茶室を改修し、料理の提供を始めました。
 - ：2024年は、「クイーン・エリザベス(3代目)」の初寄港など、過去最多となる87隻(2023年は57隻)のクルーズ船が清水港に寄港しました。
 - ：インバウンドやクルーズ船のツアー客の皆様へ、日本建築の伝統美を感じる数寄屋造りの茶室や趣を感じる庭園の中で、静岡市の食の魅力をご堪能いただければと思います。
- ・6月には、「南アルプスユネスコエコパーク」が登録10周年を迎えました。
 - ：南アルプスの生態系の保全と持続可能な利活用の調和に向けた取り組みをいっそう広げるためには、「社会の大きな力」と「世界の大きな知」が集まり、つながることが必要です。
 - ：4月には南アルプスの生態系の保全と持続可能な利活用の両立に向け、民間企業や学校など10団体(現在20団体が宣言)と「南アルプスパートナーシップ」を宣言しました。また、12月には、登録10周年記念大会を開催し、多くの方に参加いただきました。今後も、多くの皆様と南アルプスの豊かな自然環境を未来につなげる活動を続けていきます。
 - ・11月には、「静岡市教育大綱」を策定しました。
 - ：静岡市の教育大綱の特徴は、義務教育の範囲に限らず、乳幼児期からの支援やリカレント教育の推進といった「全市民・全世代」を対象とした、人づくりの「総合的な施策の大綱」であることです。
 - ：この大綱を、静岡市の教育行政の基本的な方針に位置付け、多種多様な学びと地域の教育力を通じて、一人ひとりが心豊かで幸せを感じられる人生を送ることができる基礎を作るとともに、持続可能な社会を支える人を育てます。
 - ・今年もスポーツの力を感じた一年でした。
 - ：3月には、5年ぶりに静岡マラソンが開催されました。当日は晴天に恵まれ、全国から11,194人(マラソン10,065人、ファンラン1,129人)という多くのランナーの皆様に参加いただきました。はじめて3時間を切った方も多く、自己ベストが出た人も多かったと聞いています。
 - ：来年は多くの皆様の声にお応えし、フルマラソンの制限時間が6時間(←5時間30分)に延長されることとなり、参加エントリー(12,906人)も定員に達して締め切られました。ボランティアの皆様とともに大会を盛り上げたいと思います。

- : 同じく3月には、「くふうハヤテベンチャーズ静岡」が、本拠地「ちゅ〜るスタジアム清水」で開幕戦を迎えました。日本野球機構（NPB）ウエスタン・リーグに初参加の記念すべき試合で、約1,600人の観客が応援する中、オリックス・バファローズと対戦しました。
- : 参加1年目のシーズンは悔しい結果（28勝84敗8分）となりましたが、西濱勇星（にしはま ゆうせい）投手がヤクルトスワローズへ移籍し、早川太貴（はやかわ だいき）投手が阪神タイガースからドラフト指名されるという、うれしい一報もありました。
- : また、市内関連選手では、東海大学静岡キャンパスの宮原駿介（みやはら しゅんすけ）投手が読売ジャイアンツから5位で、静岡大学の安竹俊喜（やすたけとしき）捕手が広島カープから育成3位で、それぞれ指名されました。
- : 西濱投手・早川投手・宮原投手・安竹捕手の新たな挑戦を、そして、くふうハヤテを、引き続き全力で応援していきたいと思います。

- : 11月には、元体操男子日本代表監督である水鳥寿思（みずとり ひさし）さんへ、静岡市2人目の市民栄誉賞を授与させていただきました。
- : 水鳥さんは、2004年アテネオリンピックで金メダルを獲得され、2013年からは体操男子日本代表監督を務められており、オリンピックでは3大会連続で金メダルを獲得、オリンピックと世界大会を合わせて、54個ものメダルを獲得されるなど、静岡市のみならず、日本の体操界に大きく貢献されました。長年の功績を改めて称えたいと思います。

- : 同じく11月には、清水エスパルスがJ2優勝、J1昇格を果たしました。さらに、今シーズンのホームゲームは、過去最多となる観客動員を数えました。
- : エスパルスは「サッカーのまち静岡」の象徴であり、私たち静岡市民の誇りです。
- : いつも熱い声援を送ってくださるサポーター、市民の皆様とともに、来年もエスパルスファミリーの一員として、J1の舞台でさらなる飛躍を果たしていただけるよう、全力で応援していきます。

- ・ 今を生きる人が幸せや安心感を実感でき、将来を担う子どもや若者が夢と希望を持てる社会、市民の皆様が「住んでよかった」と思える静岡市の実現に向け、昨年につき、「社会の大きな力」と「世界の大きな知」を活用した「共創」のもとで、市政運営に取り組む1年だったと思います。

担当：広報課(054-221-1353)

今年を振り返って ～ 令和6年 静岡市政にかかる主な出来事 ～

月	主な出来事、取組み
1月	・ <u>能登半島地震の被災地支援</u>
3月	・ <u>静岡マラソン 5年ぶりの開催</u> ・ <u>プロ野球くふうハヤテベンチャーズ静岡初シーズン開幕</u>
4月	・御幸町9番・伝馬町4番地区再開発ビル M20 オープン ・クルーズ船「クイーン・エリザベス(3代目)」が清水港に初寄港 (1990年2月「クイーン・エリザベス2」(2代目)が清水港に初寄港) ・ <u>清水庁舎、静岡庁舎の耐震性解析結果の公表</u>
5月	・三保雨水ポンプ場におけるPFAS除去の取組 (市及び原因者による既存の対策に加え、7月から実証実験を開始) ・使用済プラスチック製品(一部品目)の拠点回収と再資源化を開始 ・ <u>「屋内型子どもの遊び場」の充実</u> (5月 西河内, 7月 JR清水駅西口, 10月 水見色, 11月 JR静岡駅北口)
6月	・ <u>「南アルプスユネスコエコパーク」登録10周年</u> (4月 南アルプスパートナーシップ宣言の創設、12月 記念大会の開催) ・ <u>「知・地域共創コンテスト」の開始</u> (11月 二次審査会を経て、実証フェーズに進む10チームを選定)
7月	・静岡市ふるさと納税応援大使に「勝俣州和さん」就任 ・地方大学・地域産業創生交付金の採択(駿河湾・海洋DX先端拠点化計画) ・犯罪被害者等支援に関する連携協定を締結
8月	・ <u>「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」の発表</u> ・ <u>静岡市土地等利活用推進公社の設立</u> ・台風10号による被災への対応
9月	・ <u>静岡市将来人口の独自推計結果の公表</u> ・主要地方道南アルプス公園線トンネルの本体工事着手 ・新たな介護予防プログラム「しずおか ちゃちゃちゃ」のスタート ・ <u>「水害時緊急避難協力駐車場」「水害時緊急避難公共駐車場」の創設</u> ・林道東俣線内で発生した崩土への対応
10月	・ <u>駿府城公園 紅葉山庭園茶室を活用した新たな取組の開始</u> ・リニア中央新幹線静岡工区 モニタリング会議委員と 大井川流域(8市2町、静岡市)、静岡県との意見交換会に出席 ・宮川・水上土地区画整理事業の工事に着手 ・アリーナ基本計画(案)の公表 ・清水エスパルスJ1昇格(11/3 J2優勝)
11月	・ <u>水鳥寿思氏への「静岡市市民栄誉賞」の授与</u> ・第8回日仏自治体交流会議の開催 ・ <u>静岡市教育大綱の策定</u>
12月	・KEIRINグランプリ2024の開催